



私は2021年12月から23年12月までの2年間、アフリカにあるウガンダのカサンダ県という場所で、JICA海外協力隊員として活動した。

日本と環境も文化も価値観も全く異なるウガンダで、私は派遣期間中、任地のカサンダ県でエボラ出血熱が発見されたため、首都カ



ウガンダ
(2021~23年)
横山穂佳さん(26)
名古屋市

保護施設の生活 最善か

ンパラにしばらく退避することになった。その時に、ストリートチルドレンの保護施設で活動していた他の

隊員の手伝いをするようになったのだ。施設には路上で物乞いをしているところを保護された、2〜16歳の

ある日、私たちに想像してなかった知らせが舞い込んできた。それは、子ども数人が脱走したという知らせだった。

私は、保護施設で暮らすことが彼女たちには最善だわけではない。



保護施設を訪れて子どもたちとの再会を
喜ぶ横山さん(後列左端)

約300人の子どもが暮らしていた。私たちはその施設で、子どもたちにサッカーなどを指導したり、アルファベットの教えたりした。楽しさを届けようと試行錯誤していた。しかし、そんな街で笑顔の彼女たちと再会した。今でもたまに考える。彼女たちにとっての「最善」とは何なのか。何を助けるのか。何もしない方がよかったと思うこともないわけではない。